

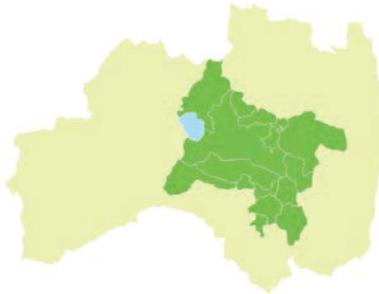
# One for all, All for one!

## こおりやま広域連携中枢都市圏(こおりやま広域圏)

○構成自治体…4市7町4村(郡山市、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町)

○面積…約2,968km<sup>2</sup>(県の約2割)

○人口…約59万人(県の約3割)



こおりやま広域連携中枢都市圏圏域



こおりやま広域連携中枢都市圏ポスター

### 〈連携中枢都市圏とは?〉

中核市と近隣市町村が連携し、ネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持することを目的とします。

### 〈市町村合併との違い〉

国が定めた要綱において「市町村合併を推進するためのものではない(第1条)」と明記されています。むしろ合併によらず市町村の独自性を担保しつつ、圏域の活性化と地域の実情に応じた住民サービスの維持・充実を図るため、柔軟な連携ができる仕組みとなっています。

## こおりやま広域圏の目的

### 〈公共サービス・活力ある社会経済の維持〉

2015年の圏域人口は約59万人でしたが、少子高齢化による人口減少で、2040年には、約46万人になることが予測されます。

公共サービスの確保をはじめ、持続可能な地域の実現のため、連携・協力により、圏域全体で50万人規模の人口を長期的に維持することを目指していきます。

### 〈広め合う・高め合う・助け合う～持続可能な圏域の創生～〉

都市と自然が調和した豊かな環境や高度な産業・研究機関が集積された立地に加え、互いの強みをいかすことで「人、モノ、情報」の交流拡大を目指します。

また質の高い医療や子育て、公共サービスなどの充実により、誰もが地域に暮らし続けられる圏域を目指します。

### 〈こおりやま広域圏の取り組み〉

#### (1) 経済成長のけん引

SDGsの推進、創業支援、6次産業化推進、観光誘客など

#### (2) 高次の都市機能の集積・強化

高度な医療サービスの提供、広域的公共交通網の構築、高等教育の環境整備など

#### (3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

地域医療・福祉・子育ての充実、教育・文化・スポーツの振興、災害対策、環境対策、道路等のインフラの整備・維持、移住・定住促進など

今後、構成市町村が連携して推進していく具体的な取組の内容を示す「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」により、広域的に学び、働き、暮らし続けることができる圏域を目指し取り組んでいきます。

### 〈連携のメリット〉

以下のようなメリットが期待されます。

- 圏域内の他市町村との連携により、観光等メニューの多様化・相互補完を図ることで、観光客数、滞在日数の増加や圏域内の周遊率が上がる。
- 病児・病後児保育、一時保育施設の広域的な利用(子育て世代等の定住意欲の向上)。
- 子どもの遊び場等の共同利用。
- 圏域内の図書館やスポーツ施設等の相互利用(利用できる蔵書数の増加、施設の有効活用、交流人口等の増加)。
- 災害時備蓄品の相互利用や避難所の相互利用による圏域住民の安全確保。
- 圏域内における高等教育や産業の振興、地域人材の育成などにより、地域課題の解決が図られる。
- 鉄道、路線バスをはじめとする地域交通について検討を行い、高齢者や交通弱者の移動手段の確保や利用しやすい交通網形成により、利便性の向上、持続可能な公共交通の形成が期待できる。